

フランス語における情報構造と名詞述語文

秋廣 尚恵

1. はじめに

今回のデータ提供にあたっては、フランス人のインフォーマント2名に協力をお願いした。インフォーマントは、フランスの大学において、高等教育を受けた後、数年以来、日本に在住しており、日本語の能力も上級レベルに達している。ここでは、インフォーマントAとインフォーマントBと記しておく。調査方法としては、例文の日本語を出来るだけ自然なフランス語に訳してもらった。

本稿では、まず、第2段落において、インフォーマントから提供された訳文を提示する。インフォーマントAの訳文(例文番号の後にaを記しておく)、Bの訳文(例文番号の後にbを記しておく)の順に掲載する。

次いで、第3段落において、データの分析を元に、フランス語における情報構造と名詞述語文の特徴について考察を述べる。

2. 訳文データ

2.1. 対比焦点(主語)

(1.a) 「えっ、一郎が来たの?」「いや、一郎じゃなくて次郎が来たんだ。」

Hein? Ichiro est venu? Non, pas Ichiro, c'est Jiro qui est venu.
eh Ichiro come.PST no NEG Ichiro PRST Jiro REL.N come.PST

(1.b) 「えっ、一郎が来たの?」「いや、一郎じゃなくて次郎が来たんだ。」

Hein? Ichiro est venu? Non, pas Ichiro, Jiro.
eh Ichiro come.PST no NEG Ichiro Jiro

2.2. WH焦点(主語)・WH応答焦点(主語)

(2.a) 「誰が来た(の)?」「一郎が来たよ。」

Qui c'est qui est venu? C'est Ichiro.
PINT.H PRST REL.NOM come.PST PRST Ichiro

(2.b) 「誰が来た(の)?」「一郎が来たよ。」

Qui est-ce qui est venu? Ichiro.
PINT.H PRST.REL.NOM come.PST Ichiro

2.3. Yes・No 疑問・形容詞述語応答焦点

(3.a) 「一郎の方が大きいんじゃないの？」 n

Ichiro ne serait pas un peu plus grand?

Ichiro NEG be-COND NEG a little more big

「いや、一郎じゃなくて、次郎の方が大きいんだよ。」

Non, Ichiro n' est pas plus grand, c'est Jiro qui est

no Ichiro NEG be.PRS NEG more big PRST Jiro REL.NOM be.PRS

plus grand

more big

(3.b) 「一郎の方が大きいんじゃないの？」

Ichiro n' est pas plus grand?

Ichiro NEG be.PRS NEG More big

「いや、一郎じゃなくて、次郎の方が大きいんだよ。」

Non, pas Ichiro. Jiro est plus grand

no NEG Ichiro Jiro be.PRS more big

2.4. 文焦点（自動詞文）

(4.a) (電話で) 「どうした (の) ?」

Qu' est-ce qui se passe?

PINT.NH PRST REL.NOM happen.PRS

「うん、今、お客さんが来たんだ。」

Non, rien. Il y a un client qui est arrivé

no nothing there-is a client REL.NOM arrive-PST

(4.b) (電話で) 「どうした (の) ?」

Qu' est-ce qui t' arrive?

PINT.NH PRST REL.N you.DAT arrive.PRS

「うん、今、お客さんが来たんだ。」

Non, rien. Un client vient d'arriver

no nothing a client arrive-RCNTPST

2.5. 対比焦点（目的語）

(5.a) 「あの子供が一郎を叩いたんだって!？」

C'est cet enfant qui aurait tapé Ichiro!?

PRST DEM child REL.NOM hit.COND.PST Ichiro

「いや、一郎じゃなくて、次郎を叩いたんだよ。」

Non, il n'a pas tapé Ichiro, il a tapé Jiro!

no he hit.NEG.PST Ichiro he hit.PST Jiro

(5.b) 「あの子供が一郎を叩いたんだって!？」

A ce qu'il paraît cet enfant aurait frappé Ichiro?!

it would appear DEM child hit.COND.PST Ichiro

「いや、一郎じゃなくて、次郎を叩いたんだよ。」

Pas Ichiro, mais Jiro.

NEG Ichiro but Jiro

2.6. 対比焦点（目的語，特に「どっち」という対比的な疑問語の場合）

(6.a) 「赤い袋と青い袋があるけど，どっちを買う（の）？」

Il y a un sac rouge et un sac bleu.

there-is a bag red and a bag blue

Vous voulez lequel?

you want PINT.SG.M

「(私は) 青い袋を買うよ。」

Je vais prendre le bleu.

I take.NRFUT the blue

(6.b) 「赤い袋と青い袋があるけど，どっちを買う（の）？」

Lequel tu achètes,

PINT.SG.M you buy.PRS

le sac rouge ou le sac bleu?

the bag red or The bag blue

「(私は) 青い袋を買うよ。」

Je prendrai le bleu.

I take.FUT the Blue

2.7. 述語焦点

(7.a) 「一郎はどうした？」

Il est passé où, Ichiro?

he pass.PST PINT.LOC Ichiro

「一郎は朝からどっかへでかけたよ。」

Ichiro? Il est parti quelque part ce matin.

Ichiro he leave.PST somewhere DEM morning

(7.b) 「一郎はどうした？」

Qu' est-ce qui est arrivé à Ichiro?

PINT.NH PRST REL.N arrive.PST to Ichiro

「一郎は朝からどっかへでかけたよ。」

Il est allé quelque part ce matin.

he go.PST Somewhere DEM morning

2.8. WH 焦点 (目的語)・WH 応答焦点 (目的語)

(8.a) 「(あの子供は) 誰を叩いたの？」

Il a tapé qui?

he hit.PST PINT.H

「(あの子供は) 自分の弟を叩いたんだ。」

Il a tapé son Petit frère.

he hit.PST his Young brother

(8.b) 「(あの子供は) 誰を叩いたの？」

Cet enfant a tapé qui?

this child hit.PST PINT.H

「(あの子供は) 自分の弟を叩いたんだ。」

Il a tapé son Petit frère.

he hit.PST his young brother

2.9. 文焦点 (他動詞文)

(9.a) 「どうした (の) ?」

Qu' est-ce qui se passe?

PINT.NH PRST REL.NOM happen

「うん、一郎が（自分の）弟を叩いたんだ。」

Eh ben, Ichiro a tapé son petit frère.
 eh well, Ichiro hit.PST his young brother.

(9.b) 「どうした（の）？」

Qu' est-ce qui se passe?
 PINT.NH PRST REL.NOM happen

「うん、一郎が（自分の）弟を叩いたんだ。」

Rien Ichiro a juste frappé son petit frère.
 nothing Ichiro just hit.PST his young brother

2.10. 目的語主題化, 主題（目的語）の継続性 いわゆる pro-drop 言語の可能性

(10.a) 「あのケーキ, どうした？」

Il est passé où, le gâteau?
 PIMP pass.PST where the cake

「ああ, (あれは) 一郎が食べちゃったよ。」

Ah Ichiro l' a mangé.
 ah Ichiro it.ACC eat.PST

(10.b) 「あのケーキ, どうした？」

Il est passé où, le gâteau?
 PIMP pass.PST where the cake

「ああ, (あれは) 一郎が食べちゃったよ。」

Ah, le gâteau, c'est Ichiro qui l' a mangé
 ah the cake PRST Ichiro REL.NOM it.ACC eat.PST

2.11. 分裂文

(11.a) 「私が昨日お店から買って来たのはこの本だ。」

C'est ce livre que j' ai acheté hier
 PRST DEM book REL.ACC I buy.PST yesterday
à la librairie
 in the bookshop

(11.b) 「私が昨日お店から買って来たのはこの本だ。」

C'est ce livre que j'ai acheté
PRST DEM book REL.ACC I buy.PST
hier à la librairie
yesterday in the bookshop

2.12. 指定文 主題（名詞述語文の主語）の継続性

(12.a) 「あの人は先生だ.この学校でもう3年働いている。」

Ce monsieur est professeur.
DEM man be.PRS teacher
Ça fait déjà trois ans
DEM make already 3 years
qu'il travaille dans cette école.
COMPL he work.PRS in DEM school

(12.b) 「あの人は先生だ.この学校でもう3年働いている。」

Cette personne est professeur.
DEM person is teacher
Cela fait trois ans qu'elle travaille dans cette école.
DEM make 3 years COMPL he work.PRS in DEM school

2.13. 倒置指定文

(13.a) 「彼のお父さんは、あの人だ。」

Son père, c'est ce monsieur
his father PRST DEM man

(13.b) 「彼のお父さんは、あの人だ。」

Son père, c'est cette personne.
his father PRST DEM person

2.14. 指定文

(14.a) 「あの人が彼のお父さんだ。」

Ce monsieur, c'est son père
DEM man PRST his father

(14.b) 「あの人が彼のお父さんだ。」

Cette personne, c'est son père
 DEM person PRST his father

2.15. 定義文

(15.a) 「あさってっていうのはね、あしたの次の日のことだよ。」

Après demain ça veut dire le jour après demain
 after tomorrow DEM want.PRS say.INF the day after tomorrow

(15.b) 「あさってっていうのはね、あしたの次の日のことだよ。」

Après demain ça veut dire que
 after tomorrow DEM want.PRS say.INF COMPL
c'est le jour qui arrive après demain
 PRST the day REL.N come.PRS after tomorrow

2.16. ウナギ文

(16.a) (何人かで入った喫茶店で注文を聞かれて)

「私はコーヒーだ。」

Pour moi, ce sera un café.
 for me DEM be.FUT a coffee

(16.b) 「私はコーヒーだ。」

Un café pour moi.
 a coffee for me

2.17. 逆行ウナギ文

(17.a) (注文した数人分のお茶が運ばれて来て「どなたがコーヒーですか？」との問いに)

「コーヒーは私だ。」

Le café, c'est pour moi
 the coffee PRST for me

(17.b) 「コーヒーは私だ。」

Le café, c'est moi
 the coffee PRST me

2.18. 形容詞述語文 修飾・並列・述語

(18.a) 「その新しくて厚い本は（値段が）高い。」

Ce nouveau livre, qui est épais, est cher.
this new book REL.NOM be.PRS thic be.PRS expensive

(18.b) 「その新しくて厚い本は（値段が）高い。」

Ce nouveau livre épais, est cher.
this new book thic be.PRS expensive

2.19. 意外性 (mirativity)

(19.a) (砂糖の入れ物を開けて) 「あつ、砂糖が無くなっているよ！」

Ah! Il n'y a plus de sucre!
oh there-is-no more suger

(19.b) (砂糖の入れ物を開けて) 「あつ、砂糖が無くなっているよ！」

Ah! il en reste pas beaucoup!
oh PIMP it.ABL remain.PRS NEG a lot

2.20. 思い出し

(20.a) 「午後、誰かに会うはずだったなあ。誰だったっけ。あつ、そうだ！田中君だったな。」

Cet après-midi il me semble que je devais voir quelqu'un.
this afternoon PIMP me seem.PRS COMPL I should see someone
C'est qui déjà? Ah, oui! C'était Tanaka.
PRST REL.NOM already oh yes PRST-IMPAST Tanaka

(20.b) 「午後、誰かに会うはずだったなあ。誰だったっけ。あつ、そうだ！田中君だったな。」

Je suis sûr que j' avais un rendez-vous cet après-midi.
I am sure COMPL I have.PST a appointment this afternoon
Mais avec qui? Ah! oui! avec Tanaka.
but with PINT.H ah yes with Tanaka

3. 考察

3.1. フランス語における焦点化のマーカ―

Cappeau and Hanote (2012: 10) や Khalifa (2004:223) によると、フランス語において、焦点化を表現するのに用いられるのは、イントネーションと統語的手段、語彙的手段などが

あるが、「英語などに比べて、アクセントのバラエティが少ないフランス語では、とりわけ遊離構文や分裂文などの統語的手段が際立った役割を果たしている」(Khalifa, 2004:223 筆者訳) という特徴があると指摘している。

Rossi (2011:124) や, Morel and Danon-Boileau (1998:64) などでも示されているように, 対比的な効果を持って焦点化された語は, 上昇イントネーションを伴って発音される傾向があるとされている。

一方, 統語的手段としては, 分裂文や左方遊離構文などが挙げられる。

分裂文では, 焦点化される部分を文中から取り出して, 提示詞 *c'est* の後に置く。一方, その要素を支配する動詞とその動詞によって支配されるその他の要素は全て, それに続く関係詞 (*qui/que/dont* など) によって導かれ, 文末にレーマ化された形で示される。例えば, 例 11.a では, *c'est* によって導かれる要素 *ce livre* が焦点化されており, その要素を支配する述語, 及びその述語によって支配される他の要素 *j'ai acheté hier* は, 全て *que* 以下にレーマ化された形で表されている。

ただし, フランス語では, 短い文脈内に, 特に情報的に重要でないような述語要素を繰り返すことを嫌うので, 関係詞節以下が省略されてしまうことが往々にしてある。例えば, 例 2 では, 質問の中で既に現われている *qui est venu* の部分とその答えの中では省略されてしまっている。

話し言葉で定型句的に用いられている疑問文の *est-ce que...?* の形式や, *wh* 疑問文の, *qui est-ce qui/que, qu'est-ce qui/que* などの形式にも, 提示詞 *c'est* が入った形式が見られるが, これを単純に疑問文焦点とみなすべきかどうかは, 検討の余地があるかもしれない。

さて, 分裂文を使った焦点化には, 統語的な制約がある。述語によって統語的な支配を受ける要素でなければ, 焦点化されない。例えば, 副詞 *franchement* 「率直に」は, 文脈によって, 動詞の様態を修飾する用法と, 発話者の態度を示すいわゆるモダリティの副詞の用法を持つ。前者の用法において, *franchement* は焦点化が可能であるが, 後者の用法においては, *franchement* は動詞の支配下には置かれないので, 焦点化ができない。

(21) *Il a parlé franchement.*

He speak.PST frankly.

「彼は率直に話した。」

(22) *C'est franchement qu' il a parlé.*

PRST frankly REL he speak.PST

「率直に, 彼は話した。」

(23) *Franchement, ce livre n' est pas intéressant.*

frankly DEM book NEG be.PRS NEG interesting

「率直に言えば, この本は面白くない。」

- (24) **C'est franchement que ce livre n' est pas intéressant.*
PRST frankly REL DEM book NEG be.PRS NEG interesting.

「率直に言えば、この本は面白くない。」

また、左方遊離構文では、焦点化される情報を文頭に遊離する。この際、主語や目的語などは、それに続く述語の部分で、焦点化された要素を代名詞によって受け直す場合が多い（例えば、例 10.b の中の *I* (it.ACC) など）。しかし、その規則は絶対的なものではなく、話し言葉の中では、例 25 のように、全く、受け直しが行われない例を見かけることがある。

- (25) *Deux cigarettes, j' ai fumé.*
two cigarettes I smoke.PST

「2本の煙草なんだ。吸ったのは」

受け直しをする場合と、そうでない場合の違いについては、談話文法上、非常に興味深い違いがあるのだが、紙面の都合上ここでは言及しない。

また、左方に遊離される焦点化は、非動詞文における焦点化にも適用されることが、Tanguy (2010)により指摘されている。

- (26) *Très bien, ta vie.* (Tanguy, 2010 :2)
very well your life

「とてもいいね。あんたの生活」

- (27) *En sa possession, hein, le chèque* (Tanguy, 2010 :4)
in his possession eh the cheque

「自分のもの（にしちまったんだよ。）ね。その小切手（を）」

以上が統語的手段による焦点化である。焦点化はイントネーションによっても、あるいは、統語的手段によっても、また、両者の組み合わせによっても行われることも指摘しておく。

さて、以上が、フランス語の焦点化のマーカーについての簡潔な説明である。ここで、今回の焦点化についてのアンケート結果をここでまとめておく。インフォーマントのいずれかが焦点化をした形式をとっていれば「○」とする。いずれのインフォーマントも焦点化を行っていない場合については「×」とする。

①対比焦点（主語）	○	
②wh 疑問文焦点・wh 応答文焦点：	○	
③Yes・No 疑問・形容詞述語応答焦点	○	
④文焦点（自動詞文）		×
⑤対比焦点(目的語)		×
⑥対比焦点(目的語, 特に「どっち」という対比的な疑問語の場合)		×
⑦述語焦点		×
⑧WH 焦点（目的語）・WH 応答焦点（目的語）	○	
⑨文焦点（他動詞文）		×
⑩目的語主題化, 主題（目的語）の継続性・pro-drop 言語の可能性	○	
⑪分裂文		×

フランス語において、焦点化は、文中に現れる、ある一つの要素を際立たせ、他の要素と対比させるために用いられる手段であると考えられている。従って、文全体が焦点化される例や、述語そのものが焦点化される例は、考えられにくいのではないかと考えられる。

今回の調査では目的語の対比焦点が×という結果であった。ただし、先に述べたように、述語に支配される要素であれば分裂文の形式による焦点化が基本的にはフランス語では可能であるから、おそらく、談話的な文脈を変えることで、目的語の対比焦点は不可能ではないだろう。例えば、

- (28) *Vous préférez le rouge? Non, c'est le bleu que je préfère.*
 you prefer the red no PRST the blue REL.ACC I prefer
 「赤い方が好きですか？」 「いいえ、好きなのは青い方です。」

3.2. フランス語のコピュラ文について

まず「措定文」についてよく言われていることは、主語の属性を表す名詞は非指示的であり、基本的には、無冠詞名詞であることが多いということである。例 12 の *professeur* 「先生」も無冠詞で現れている。ただし、その名詞句に形容詞が付く場合には、その限りではない。

- (29) *Ce monsieur est un bon professeur.*
 DEM man be.PRS a good teacher
 「この人はいい先生だ。」

次いで、「倒置指定文」と「指定文」であるが、インフォーマントの回答にも表れているように、主語の名詞句がいずれも、ce という指示代名詞によって受け直されていることに注意したい。フランス語において、ce という代名詞は、先行詞として現れる名詞句の指示対象を非個別化したり、非指示化したりしてとらえ直すという機能を持っていることが指摘されてきた。つまり、そうすることによって、son père の指示対象を「変項」化し、それに新たな指示対象を付与する「倒置指定文」や「指定文」が構成されるのである。

「ウナギ文」も「逆ウナギ文」も、フランス語では難しい。ただし、Je 「私」を主語として直接、名詞述語 café に結び付ける例は皆無ではなく、例えば、「je suis très café 私はかなりのカフェ愛好者だ」という例がある。ただし、これはアンケートで要求されるウナギ文とはかけ離れた例である。

4. 形容詞述語の列挙、並列

関係節を用いて形容詞述語を列挙することも可能であろうが、形容詞を名詞に修飾させる形で行えるのであれば、そちらが好まれる。

5. 意外性

間投詞の挿入以外に、特に「意外性」をマークすることに特化した統語的手段があるかどうかについては今回のアンケートでははっきり明示されなかった。しかし、いわゆる感嘆文などは、意外性を表す統語手段として機能するものとして考えられるだろう。

6. 思い出し

思い出した内容を表す場合に、例 20.a の C'était Tanaka「田中君だった」に示したように、半過去形が現われる場合がある。このような半過去形の用い方は、日本語の「た」の持つモーダルな用法に似ていると思われる。

7. 略記号

ACC	対格
ABL	奪格
COND	条件法
COMPL	補足節導入詞
DAT	与格
DEM	指示詞
F	女性
FUT	未来形
H	人

INF	不定法
IMPAST	半過去形
LOC	場所格
M	男性
NOM	主格
NEG	否定辞
NH	非人
NRFUT	近接未来形
PL	複数
PST	過去形
PIMP	非人称主語代名詞
PINT	疑問代名詞
PRST	提示詞
PRS	現在形
REL	関係詞
SG	単数

参考文献

- Capeau, P. and S., Hanote (eds.) (2012). *Focalisation(s)*, Rennes, Presse Université de Rennes.
- Kalifa, J.-C. (2004). *Syntaxe de l'anglais : théories et pratiques de l'énoncé complexe*, Gap-Paris, Ophrys.
- Morel, M.-A. and L., Danon-Boileau (1998). *Grammaire de l'intonation, l'exemple du français oral*, Faits de Langue,
- Noalig, T. (2016). Focalisation averbale vs. focalisation verbale en français parlé, le cas des constructions binaires. *Discours*, 6, URL : <http://discours.revues.org/7726> 2016年3月閲覧.
- Rossi, M. (2011). L'intonation modale, *Modèles linguistiques*, 63, pp.117-129.
- 坂原茂.2012.『フランス語学の最前線1』ひつじ書房

